

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	医療心理科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	公認心理師の職責		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	前期 木曜3限	教室名	5校舎9階
担 当 教 員	諸山 碧葉、加藤 裕史	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>心理職者に、どのような法的知識が必要であり、どのような職責があるのかを学ぶ。広義には対人援助者としての法的責任、価値観、倫理、基本的態度について理解する。さらに、知識だけにとどまることなく、これらの基本姿勢を身につけることができるよう、演習形式で学ぶ。また、当該科目での学習をもとに、心理実習での機関の役割についてまとめ、実習計画書の作成も行う。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>成績評価の方法は筆記試験とレポートとする。成績評価基準は、試験の成績50点とレポートの成績50点の計100点、学習状況、出席状況を総合して、試験素点の70%、出席評価点20%、平常評価点10%の100点満点とする。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>参考図書「公認心理師の基礎と実践 第1巻 公認心理士の職責」(野島一彦編著・元永拓郎著 遠見書房) 参考図書「公認心理師必携テキスト」(福島哲夫編集責任 学研)</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>新聞等で、保健医療分野、福祉、産業、司法関係のニュース記事を読むこと。これらのことから、現在および今後の課題、求められる倫理観などについて考えていきたい。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>実習指導を兼ねるため、90%以上の出席率を維持すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	業務の種類を言えるようになる。	公認心理師法 公認心理師必携 テキストp2	3年次実習先の事業内容について調べる。	
		各コマにおける授業予定	「公認心理師の役割」公認心理師法第2条を参考に、公認心理士の役割と業務について学ぶ。対人援助職の価値観や倫理観について学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	法的義務、インフォームド・コンセント、守秘義務について説明できるようになる。	公認心理師法 公認心理師必携 テキストp9、p16 ～	さまざまな医療専門職の倫理規定を読む。	
		各コマにおける授業予定	「公認心理士の法的義務及び倫理」「安全性と利用者中心の立場・情報の適切な取り扱い」法的義務、インフォームド・コンセント、守秘義務と例外状況について事例を通して学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	保健医療機関とそこでの業務を説明できる。	事例 公認心理師必携 テキストp32	医療法の目的を読む。	
		各コマにおける授業予定	「保健医療、福祉、教育その他における公認心理師の具体的な業務」①保健医療分野:保健医療分野で、心理的支援が行われている機関や業務を学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に利用可能な心理的支援を説明できる。	公認心理師必携 テキストp33	三福祉士の法律の目的を読む。	
		各コマにおける授業予定	「保健医療、福祉、教育その他における公認心理師の具体的な業務」②障害者福祉:障害者福祉における心理的支援の意義、業務について学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童福祉分野で心理的支援が必要な場面を説明できる。	公認心理師必携 テキストp33	三福祉士の法律の目的を読む。	
		各コマにおける授業予定	「保健医療、福祉、教育その他における公認心理師の具体的な業務」③児童福祉:児童虐待、発達障害児支援など、児童福祉分野における心理的支援の意義や、業務について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	産業分野で心理的支援が必要な場面を説明できる。	公認心理師必携 テキストp36	労働安全衛生法、就労支援に関連する制度について調べる。
		各コマにおける授業予定	「保健医療、福祉、教育その他における公認心理師の具体的な業務」④産業労働分野:当該領域における心理的支援の実際や業務について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者福祉の領域で可能な心理的支援を挙げることができる。	公認心理師必携 テキストp33	老人福祉法の目的を読む。
		各コマにおける授業予定	「保健医療、福祉、教育その他における公認心理師の具体的な業務」⑤高齢者福祉:高齢者福祉分野における心理的支援の意義や業務について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	教育現場で心理的支援が必要な課題を挙げることができる。	公認心理師必携 テキストp35	教育基本法、教育の目的を読む。
		各コマにおける授業予定	「保健医療、福祉、教育その他における公認心理師の具体的な業務」⑥教育分野:スクールカウンセリングを中心に、教育分野における心理的支援の意義や方法、業務について学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	当該領域で心理的支援が必要な課題を挙げることができる。	公認心理師必携 テキストp36	保護観察、医療観察、家庭裁判所、少年相談専門職員、について調べる。
		各コマにおける授業予定	「保健医療、福祉、教育その他における公認心理師の具体的な業務」⑦司法・犯罪分野:当該領域における心理的支援の実際や業務について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理職者に求められる資質を挙げることができる。	公認心理師必携 テキストp39	公認心理師法の義務を読む。
		各コマにおける授業予定	「公認心理師の自己課題発見・解決能力」心理職に求められる課題発見能力、自己学習による課題解決能力、常に成長発展しなければならぬ意義や方法について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	スーパービジョンの種類と形態を挙げることができる。	公認心理師必携 テキストp46	公認心理師法の義務を読む。
		各コマにおける授業予定	「公認心理師の生涯学習への準備」心理職者に求められる、生涯にわたる自己研鑽の意義、スーパービジョンの方法について学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域連携やチーム医療に参画する他職種を挙げることができる。	公認心理師必携 テキストp53	厚生労働省HPから、地域包括ケアシステムとチーム医療の推進について、を閲覧する。
		各コマにおける授業予定	「多職種連携及び地域連携」地域包括ケアと地域連携、医療機関におけるチーム医療のあり方について学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	危機介入が必要な場面、課題を挙げることができる。	公認心理師必携 テキストp28	危機介入が必要な場面や課題に関する配布資料を通読する。
		各コマにおける授業予定	「危機介入とリスクアセスメント」臨床的に生じる危機にはどのようなものがあるか、それらの評価と介入の方法について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、自己評価できる。	実習日誌	実習計画の到達度を振り返る。
		各コマにおける授業予定	「事例検討①」実習で得られた知見を、振り返り、事例の検討を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習における各人の関わり方を振り返ることができる。	実習日誌	実習での気づき、課題をまとめる。
		各コマにおける授業予定	「事例検討②」事例検討を行い、レポートにまとめる。		